

[ダイバーシティ&インクルージョン]

社員一人ひとりが活躍できる、 ダイバーシティ&インクルージョンを企業風土に。

さまざまなバックグラウンドを持つ社員が働いているムラタでは、「多様性(ダイバーシティ)」をお互いに「受容(インクルージョン)」することで、イノベーションを生み出すことが重要ととらえ、ダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)を推進する委員会「M-DIP (Murata Diversity Inclusion Plaza)」を設置しました。ムラタでは性別や人種など目に見える違いだけでダイバーシティを進めるのではなく、一人ひとりの思考、経験、アイデア、能力、働き方など目に見えない違いを受け入れ、それぞれの個性を大事にしなが、衝突を恐れず、意見を出し合いながら、イノベーションを起こしていきたいと考えています。意見は違っても同じ方向を向いている仲間とともに、自分では思いつかなかったアイデアを出し合い、企業成長につなげていくことがD&Iを進める理由です。

M-DIPメンバー15名の中から、それぞれ想いを持った3名がD&Iについて、経験をベースにしたから意見を交わしました。

海外勤務経験がある吉岡は「海外で働いていると未知のことが本当に多い。そういった環境にいると、相手のことをよく観察するようになる。ムラタはグローバルにビジネスをしているので、相手を知ろうとする姿勢が欠かせない」と異なる価値観や考え方を受け入れることの大切さを強調します。

女性技術者の北尾は「私が入社した時、部門に女性技術者が私一人で緊張や不安があったが、周囲の人たちに支えられた。一人ひとりが活躍で

きるように、信頼関係構築や自由闊達な議論を通じて、お互いの価値を認め高め合うことを大切にしたい」と意識変革を訴えます。

育児休暇から復帰し、時短勤務をしている古部は「育児と仕事の両立が不安になった時期があり、職場の人たちからの温かい声掛けに支えられ乗り越えることができた。この経験から、一人ひとりの存在を認め合うことの大切さを実感している」と、インクルージョンに対する感謝の気持ちを語ります。

M-DIP参加者は、経験を通じてD&Iの必要性を感じています。いろんな考え方があるとビジネスニーズを網羅でき迅速に対応できる、一人ひとりが持ち味を生かせればイノベーションはきっと起こせる、互いを認め合って生き生き仕事する人を増やしたい。議論の終わりに3名はM-DIPが今後社内に求めていくD&Iに期待を込めていました。

ムラタでは多様な人材の考え方・経験・能力を活かすことで、アイデアの衝突と新しい結合からイノベーションを起こし、さらなる社会・文化の発展への貢献を目指す成長戦略としてD&Iを位置づけ、今後も推進していきます。

一人ひとりが
特性を發揮し
生き生きと働ける
企業でありたい。

ムラタグループにおける
経営理念のワークショップを
開催した国の数

16^カ国

写真左より
株式会社村田製作所
営業本部日本営業統括部
吉岡 憲一
株式会社村田製作所
モジュール事業本部 IoT統括部
北尾 文美
株式会社村田製作所
生産本部品質保証統括部
古部 祐子

グローバルに
理念を浸透させ、
意識と行動を
ひとつに。

[海外拠点での理念共有]

ムラタの理念を実践し、 企業価値を高めていく。

2012年、フィンランドのMEMS専門メーカーであったVTI Technologies OyがMurata Electronics Oy(以下ムラタフィンランド)としてムラタグループに加わったことを受けて、私たちは、ムラタの経営理念(=社是)を共有するためのワークショップを継続的に実施しています。

このプログラムは、ムラタの経営理念を共有し、お客様満足度の向上とムラタの継続的な発展に向けて、従業員がどのように貢献できるかを考えるきっかけを作ります。全従業員参加型のワークショップでは、ムラタの経営理念や社是についてのグループワークが行われ、参加者から「私たちにはもっとできることがある。ムラタの経営理念を日々の業務に取り入れることがムラタの発展につながるのだと実感した」と前向きな意見が上がりました。

これらのワークショップはeラーニングでも共有でき、新しく入った従業員が、ムラタの経営理念をこのシステムで自習することも推進しています。そして、私たちはこれらのワークショップを通じて、ムラタの経営理念を「理解する」から「実践する」までに成長することができました。さらにワークショップの取り組みは、さまざまな成果をもたらしています。

— Case 1

モノづくりのスキルを強化する。

2016年、ムラタフィンランドのMEMS製造部の従業員グループは、日本の製造現場ではどのような社是の実践が行われているのかを学ぶために、金沢村田製作所(以下金沢村田)を訪れました。金沢村田では従業員が社是の精神のもと継続的に作業の

改善、改革に取り組んでおり、これがムラタの強みになっていると感じた参加者らは、当取り組みを、自社の製造工程の強化に活かしています。



Murata Electronics Oyのメンバーによる金沢村田製作所訪問の様子

— Case 2

品質向上のために、「科学的管理」を実践する。

「科学的管理の実践」は、品質向上のためにムラタフィンランドで実践してきた主要な取り組みのひとつです。ムラタの分析能力を活かし、経営理念に組み込まれた品質への考えをムラタフィンランドで展開することによって品質改善につなげることができました。私たちは、「Know your process(あなたの作業プロセスを知ろう)」や、「Cross-functional team work(機能横断型のチームワーク)」と呼ばれる活動の中で社是を実践することで、社内のノウハウを効果的に活用できるようになりました。

私たちは、ムラタグループの一員として、今後もムラタの経営理念を根付かせる活動を継続していきます。そして社是の実践を通してモノづくりに取り組むことにより、文化の発展に貢献してまいります。